

殺菌剤

# ベンレート® 水和剤

有効成分: ベノミル...50.0%

ベンレートは住友化学(株)の登録商標です。

いろんな**作物**につかえる!  
いろんな**病害**につかえる!

雨にも  
ケロツと!





## 果樹

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*			
みかん	そうか病 灰色かび病	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	前日	4回	散布	4回			
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 (青かび病) (緑かび病) (軸腐病) (炭疽病) (黒斑病)	4000~6000倍			4000倍		2回	2回		
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
りんご	黒星病 黒点病 褐斑病 うどんこ病 腐らん病 輪紋病 すす点病 すす斑病	2000~3000倍			2000倍		4回	4回		
	モニリア病	2000倍								
りんご(苗木)	白紋羽病	1000倍			—		植付直前	—	10~30分間根部浸漬	—
なし	胴枯病 輪紋病 黒星病 うどんこ病 心腐れ症(胴枯病菌)	2000~3000倍			200~700ℓ/10a		前日	4回	散布	6回 (塗布は2回、 散布は4回)
	枝枯病 胴枯病	20倍			—		3月~6月	2回	マシン油乳剤で希釈し塗布	
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病 すす点病	2000~3000倍			2000倍		前日	6回	散布	6回
	擬似炭疽病	2000倍								
もも	うどんこ病 灰星病 黒星病 ホモブンス腐敗病	2000~3000倍	2000~3000倍	3日前	3回	散布	3回			
ネクタリン	灰星病 黒星病 ホモブンス腐敗病	2000~3000倍								
うめ あんず	黒星病 すす斑病	3000倍	2000~3000倍	7日前	1回	散布	1回			
おうとう	灰星病 褐色せん孔病							2000~3000倍	3日前	2回
ぶどう	褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 晩腐病	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	45日前	3回	散布	4回 (休眠期処理は1回、 散布は3回)			
	黒とう病 芽枯病	2000倍								
	黒とう病 晩腐病 つる割病	200~500倍								
	枝膨病	200倍								
くり	実炭疽病	2000~3000倍	2000~3000倍	裂果前但し、 14日前	4回	散布	4回			
キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病	2000倍		7日前	5回	5回				
ブルーベリー	斑点病 バルデンシア葉枯病	3000倍	2000~3000倍	14日前	1回	1回				
びわ	灰斑病 ごま色斑点病	2000~3000倍			3回	3回				
ピタヤ	炭腐病	2000倍	2000~3000倍	30日前	2回	2回				
いちじく	株枯病	1000倍			5回	5回	株元灌注			



## ハウス

適用場所	作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	ベノミルを含む農薬の総使用回数*
温室、ガラス室、 ビニールハウス等の 密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	150g/10a	5ℓ/10a	前日	3回	常温煙霧	4回 (種子への処理は1回、は種後は3回)
	トマト					5回		6回 (種子への処理は1回、灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)



# 野菜など

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病 つる割病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)
				定植前~定植1ヶ月後			
うり類 (漬物用)	炭疽病	1000倍	150~300ml/株	定植前~45日前	2回	灌注	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)
ズッキーニ	菌核病	3000倍			3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)
すいか	つる枯病 菌核病 炭疽病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	5回		6回 (種子粉衣は1回、 は種後は5回)
メロン かぼちゃ	菌核病 白斑病						
なす	半身萎凋病	500倍 1000倍	200~300ml/株 400~600ml/株	定植後~14日前	3回		土壌灌注
	黒枯病 灰色かび病 菌核病 褐紋病 フザリウム立枯病	2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	前日		散布	
甘長とうがらし	炭疽病						
ピーマン	うどんこ病 斑点病 炭疽病	2000~3000倍					
トマト	萎凋病 菌核病	1000倍 2000倍	150~300ml/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)
	葉かび病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	5回	散布	
ミニトマト	萎凋病 菌核病	1000倍 2000倍	150~300ml/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布は3回)
	葉かび病 灰色かび病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	
ねぎ	萎凋病 小菌核腐敗病	100~200倍	—	定植直前	1回	5分間苗根部浸漬 30分間苗根部浸漬	3回 (種子粉衣は1回、 苗根部浸漬及び 灌注は合計1回、 散布は1回)
	小菌核腐敗病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml	定植前		灌注	
わけぎ	萎凋病	1000~2000倍 500倍	100~300ℓ/10a —	30日前 植付前		散布 30分間種球浸漬	1回
	たまねぎ	乾腐病	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml~1ℓ	定植前	1回	灌注
100倍			セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml				
1g/1kg培土 20倍		—	は種前 移植直前	育苗培土混和 3分間苗根部浸漬			
灰色腐敗病 灰色かび病 黒かび病		2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	前日	6回	散布	
らっきょう こんにゃく	乾腐病	500倍 50~100倍	—	植付直前 植付前	1回	30分間種球浸漬 種いもの芽基部に散布	1回
いちご	炭疽病 萎黄病	500倍	50~100ml/株	仮植前		10~30分間苗根部浸漬 1~3時間苗根部浸漬	
	炭疽病 萎黄病			100ml/株	育苗期	3回	灌注
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、さやいんげん、 さやえんどうを除く)	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布	6回 (種子粉衣は1回、 灌注は2回、 散布は3回)
	立枯病	1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	発芽14日後まで	2回	灌注	
えだまめ	菌核病 紫斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布	
	立枯病	1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	発芽14日後まで	2回	灌注	
さやいんげん	菌核病 角斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫開始14日前まで	3回	散布	
	立枯病	1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	発芽14日後まで	2回	灌注	
さやえんどう	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	
	立枯病	1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	発芽14日後まで	2回	灌注	



2021年8月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*	
豆類 (種実、ただし、 だいず、いんげんまめ、 えんどうまめ、 らっかせいを除く)	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	14日前	4回	散布	5回 (種子粉衣は1回、 は種後は4回)	
	菌核病 紫斑病			前日				
だいず	黒根腐病	乾燥種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣		
いんげんまめ	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	7日前	4回	散布		
えんどうまめ	角斑病	1000~1500倍		14日前				
	菌核病	1000~2000倍		7日前				
らっかせい	褐斑病	2000~3000倍		7日前				
	黒渋病	2000倍						
レタス	そうか病	2000倍						
	菌核病	2000~3000倍		14日前				
アスパラガス	菌核病	2000~3000倍						
	灰色かび病	2000~3000倍		14日前				
しょうが	茎枯病	2000倍						
てんさい	株腐病	2000倍						
	いもち病	1000倍	21日前					
かんしょ	褐斑病	2000~4000倍						
	つる割病	500~1000倍	—	植付前	1回	20~30分間苗基部浸漬	4回 (植付時までの処理は1回、 植付後は3回)	
	黒斑病					種いも重の0.4%		30分間苗基部浸漬
	基腐病					種いも粉衣		
	つる割病	500~1000倍				20~40mℓ/株		挿苗時
斑点病	1000倍	100~300ℓ/10a				7日前		散布
ばれいしょ	黒あざ病	種いも重の0.3~0.4%	—	植付前	1回	種いも粉衣	1回	
やまのいも	炭疽病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (植付前までの処理は1回、 植付後は3回)	
	葉渋病							
さといも(葉柄)	乾腐病	種いも重の0.5%	—	催芽前	1回	種いも粉衣	1回	
なたね	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	3日前	2回	散布	2回	
ブロッコリー		2000~4000倍		7日前	3回		4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	
カリフラワー								
キャベツ		2000倍		6回	7回 (種子粉衣は1回、 は種後は6回)			
非結球あぶらな科野菜類 (みずな、 チンゲンサイを除く)	炭疽病 白班病	4000倍	100~300ℓ/10a	21日前	1回	散布	2回 (種子粉衣は1回、 散布は1回)	
				みずな				14日前
				チンゲンサイ				
はくさい	白班病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	7日前	2回	散布	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)	
	菌核病							
ほうれんそう	炭疽病	2000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	21日前	2回	灌注		
しそ(花穂)	萎凋病							
つるむらさき	菌核病					100~300ℓ/10a		14日前
パセリ	紫斑病	1000倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	45日前	3回	灌注	3回	
セネガ	立枯病							
ふき	黒根病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	2回	散布	2回	
しゃくやく(薬用)	葉枯病	2000倍	100~300ℓ/10a	7日前	2回	散布	9回 (植付前までの処理は1回、 植付後は8回)	
	根黒斑病	20倍		植付前		1回		10分間苗基部浸漬
	灰色かび病	500倍						16分間苗基部浸漬
みょうが(花穂)	いもち病	2000倍	100~300ℓ/10a	14日前	8回	散布	3回	
みょうが(茎葉)				3日前		3回		散布、但し花穂の発生期には マルチフィルム被覆により 散布液が直接花穂に 飛散しない状態で使用する
みつば	菌核病	種子重量の0.5%	100~300ℓ/10a	は種前	1回	種子粉衣	1回	
		500倍				24時間種子浸漬		
せんきゅう	黒色根腐病	160倍	—	植付前	1回	30分間種子浸漬		
かのこそう	半身萎凋病							
うど	菌核病	500倍		種株冷蔵保存前	1回	30分間種球浸漬		
たらんぎ	芽枯症	1000倍		28日前		30分間種株浸漬		
野菜類	フザリウム菌 による病害	乾燥種子重量の 0.16%		は種前		駒木瞬間浸漬		
とうもろこし						種子処理機による 種子粉衣		
オクラ	葉すす病	3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	

\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。



## 稲・麦

2021年8月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*
稲	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	乾燥種粉重の 0.5~1.0%	—	は種前 (浸種前又は浸種後)	1回	種子粉衣	
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	30~50倍				10分間種子浸漬	
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	30倍				6~24時間種子浸漬 12~24時間種子浸漬 24時間種子浸漬	
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	500~1000倍				種子吹き付け処理	
	いもち病	7.5~15倍				乾燥種粉1kg当り 希釈液30mℓ	
	いもち病	100~500倍					
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌)	500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時	2回	灌注	2回 (種子への処理は1回、 床土への混和は1回)
	苗立枯病 (トリコデルマ菌)		1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ			
	いもち病	500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時~は種7日後頃			
		1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
		育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1g	—				
麦類(小麦を除く)	雪腐病	2000~3000倍	60~150ℓ/10a	根雪前	2回	散布	1回
小麦	赤かび病 うどんこ病	2000倍		7日前			4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)



## 花き・樹木

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*
ばら	うどんこ病 黒星病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	—	6回	散布	6回
きく	白さび病	1000倍					
	黒斑病 褐斑病	2000~3000倍					
りんどう	花腐菌核病	3000倍					
チューリップ	球根腐敗病	100~500倍	—	植付前又は貯蔵前	2回	15~30分間球根浸漬	2回
		球根重量の0.1~0.2%				球根粉衣	
しゃくやく ぼたん	根黒斑病	20倍	—	植付前	2回	瞬間浸漬	
シクラメン		500倍				10分間苗基部浸漬 16時間苗基部浸漬	
トルコギキョウ	立枯病 (フザリウム菌)	1000倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約4~5ℓ) 当り500mℓ	定植前日	1回	灌注	1回
パンジー ゼラニウム	根腐病 黒根病	2000倍	セルトレイ(60×30cm) 1冊当り500mℓ	育苗期	2回		2回
樹木類	ごま色斑点病 炭疽病 輪紋葉枯病		2000倍	200~700ℓ/10a	発病初期	—	散布
	いぬつけ	枝枯病					

\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。



## その他

2021年8月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*
茶	炭疽病 白星病 輪斑病 褐色円星病	2000~3000倍	200~400ℓ/10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回
	白紋羽病	1000~2000倍	—	—			
たばこ (苗床)	腰折病	1000倍	1~3ℓ/m <sup>2</sup>	は種及び仮植後	2回	散布	2回
	黒根病	1000倍	2~3ℓ/m <sup>2</sup>	仮植又は植付1~3日前まで			
西洋芝(ペントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ)	2000~3000倍	2ℓ/m <sup>2</sup>	発病初期	6回	散布	6回
桑	胴枯病	1000倍	100~300ℓ/10a	摘採9日前まで	2回		散布
	輪斑病	2000倍					

\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

## ⚠ 使用上の注意事項

### ＜効果・薬害等の注意＞

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 水稻の種子消毒の場合は下記の注意を守ってください。
  - 1) 消毒前に塩水選を行ってください。
  - 2) 消毒後は水洗いせずに浸種又は播種してください。
  - 3) 薬液の温度は10℃以下をさけてください。
  - 4) 粉衣処理では付着をよくするために予め種子を湿らせ(塩水選水切り後などが適当)湿粉衣してください。
  - 5) 浸種後処理は種子が鳩胸の時期になるまでに行ってください。
  - 6) 本剤処理を行った種子の浸種に当っては次の注意を守ってください。
    - ① 処理後、種粉を十分風乾してから行ってください。
    - ② 浸種は停滞水中で行ってください。
    - ③ 種粉と水の容量比は1:2とし、水の交換は行わないでください。ただし、水温が高く種粉が酸素不足になるおそれがある時は静かに換水してください。
- いもち病に対する本剤の育苗箱灌注処理は、本田で発生するいもち病に対しては効果が期待できないので注意してください。
- きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、退色や生育抑制等の薬害を生じることがあるので、所定濃度を守ってください。
- なすの半身萎凋病に対して灌注処理する場合は、定植前及び定植時処理では葉の黄化、生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので定植後に処理してください。
- たまねぎ、いちごに対して苗木根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは初期生育遅延等の薬害のおそれがあるので、使用方法を厳守してください。
- いちごの萎黄病防除に使用する場合、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせるとより有効です。
- こんにゃくの乾腐病防除に使用する場合は、種芋の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に十分かかるように1m<sup>2</sup>当り100mℓ散布してください。

- 麦類の雪腐病防除に使用する場合、散布は根雪近くに行ってください。
- りんごのモニリア病に使用する場合、多発条件下では効果が劣ることがありますので、発病初期に時期を失ないように散布してください。
- なしの枝枯病、胴枯病に使用する場合は、マシン油乳剤で希釈し、病斑部及びその周辺に1~2回塗布してください。なお、病斑部を削り取った後塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削ってください。
- 桑の胴枯病に使用する場合は散布適期は9月上・中旬です。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ってください。
  - 1) 煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の設定及び使用に当っては、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - 2) 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
- たばこ腰折病に対し親床で使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、希釈倍数は2000倍とし、散布量は1m<sup>2</sup>当り1~2ℓとしてください。また、発芽期には使用しないでください。
- 水耕栽培でトルコギキョウを栽培する場合には、廃液は環境中に流出しないように適切に処理してください。
- 本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせ使用してください。
- 本剤はエトフェンブロックス乳剤又はダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさけてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### ＜安全使用上の注意＞

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。

- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないでください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器・空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

1975(21-8)